

日本語文章表現

第13講 「論文の書き方（2）論点の設定と論証の技術」

入江 さやか(岐阜女子大学)



第13講 「論文の書き方（2）論点の設定と論証の技術」

【目 的】

明確な論点の設定と強固な論証の技術を学ぶ。情報や知識をもとに新しい論点や視点を創出し、複数の情報源やデータを統合して論証を構築する方法について理解する。



【学修到達目標】

- 情報や知識をもとに、新しい論点や視点を創出できるようになる。
- 複数の情報源やデータを統合して、強固な論証が行えるようになる。



第13講 「論文の書き方（2）論点の設定と論証の技術」

【レポート・論文の書き方】

- レポート：問い・課題が設定してある場合が多い
- 論文：自ら問い・課題を立てて自分で答える

■ 論文の6つの基本構成

目的→ 先行研究→ 資料と方法→ 結果と分析→ 考察→ 結論
序論→ 本論→ 結論

※ 論文は「起承転結」ではない！

■ 序論

- ・ 問いを示す【目的】

研究を行う目的、自分の研究の位置付け
問いを明らかにするために使われている語の
定義、範囲の確認

- ・ オリジナリティーを示す【先行研究】

「先行研究」を記す。問いについて、どこまでが明らかにされていて、どこからがオリジナルなのか、明確に示す。



■ 序論

- ・ 問いに答える道筋を示す【資料と方法】

問いを明らかにする方法を明確に示す。方法を明らかにすることで、同じ研究を誰でも同じ方法でできるようになり、客観性が保証される。



■ 本論【結果と分析】 【考察】

- ・ 「結果と分析」は、方法にしたがって分析した結果を示す。立てた問いに対する答えを導いた根拠となる具体的なデータを示す。

- ・ 「考察」はなぜそのような結果になったのか、理由を考え、説明する。ただし、「結果と分析」から導き出される以上のことを妄想で書いてはいけない。



■ 結論

- ・ 研究全体をまとめる。論文全体を簡潔にまとめた要旨と、今後の課題を書く。本論で触れていない内容を結論に書いてはいけない。結論だけ読んでも論文全体の内容がわかるようにまとめるのがよい。

- ・ 卒業論文や修士論文は、これらのプロセスをすべて経る必要がある → 時間と労力



課題

トピックに関する既存の意見や論文を分析し、それらの中から新しい視点や論点を提案する。



日本語文章表現

第13講 「論文の書き方（2）論点の設定と論証の技術」

入江 さやか(岐阜女子大学)